

パッケージ上では商品の魅力や情報を伝えきれない…

そこで!

消費者への情報提供に QRコードを活用しよう!

加工食品メーカー
A社

加工食品メーカー
B社

GS1 Digital Link不使用A社の場合

商品情報と
キャンペーンページの
URLをそれぞれQRコード
にすれば良いよね

<https://●●/product-info>



<https://●●/campaign>



GS1 Digital Link使用B社の場合

商品には既にグローバル
標準のGTIN (JANコード)
を設定してるし、GTINを
起点にGS1 Digital Link
を活用しよう



ロット番号や
消費期限などの
属性情報も
表現できる!

QRコードが
複数あって
読みづらいな…

あれ?
このキャンペーン
終了してる

アクセス
できない…



真贋判定・
トレサビ情報の
取得まで!

1つのQRコードから
色んな情報にアクセス
できる!

ロットごとに応じた
情報にもアクセス
できるんだ!
すごい!

パッケージ
差し替えのために
商品回収!?

他のページの
URLも
入ってる!?

QRコード
だらけじゃん!!

誘導したいページが
増えてもURLが
変更になっても
パッケージ変更必要なし!

業務上の
日付管理にも
活用できる!



○月○日
○○センター 出荷

○月○日
○○店 入荷

GS1 Digital Linkとは？

GS1 Digital Linkは、GTINなどのGS1識別コードを、商品情報ページやアレルゲン情報ページなど、関連するウェブ上の様々な情報・サービスに紐づけるための標準仕様です。GS1識別コードを起点に、複数のサービスを発見※したり、ロット番号などの属性情報と異なるサービスにアクセスしたりすることが可能です。

※サービス発見とは、サービスの場所を直接示すのではなく、GS1識別コードから、複数のサービスの場所を見つける機能のことを指します。



GS1 Digital Linkで標準化しているものとして、サービス発見のためのURLの作り方と、リゾルバの挙動があります。

サービス発見のためのURL：GS1 Digital Link URI

GS1識別コードや属性情報のデータの先頭に付けて使用する、2桁から4桁の数字のコードであるGS1アプリケーション識別子（AI：Application Identifier）とデータを組み合わせ、サービス発見のためのURL「GS1 Digital Link URI」を作ります。GS1 Digital Link URIシンタックスという標準化された文法を用いて、ウェブのURLで表現します。

GTIN (01) : 04569951119996
有効期限 (17) : 300406
ロット番号 : (10) 12abc



機械処理可能

単一・不変に表現可能

<https://id.gs1.org/01/04569951119996/10/12abc?17=300406>

リゾルバ

GTINのAI

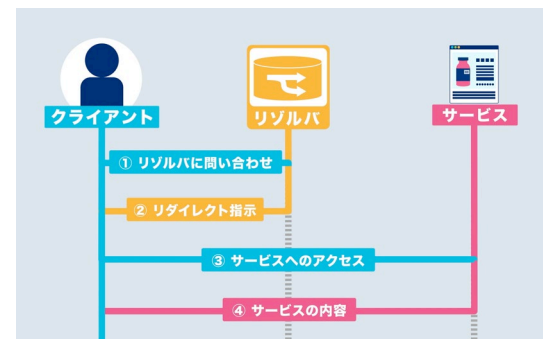
GTINそのもののデータ

リゾルバのはたらき

リゾルバは、対応するサービスに紐づける電話帳のようなはたらきを行います。クライアント（例：スマートフォン）がGS1 Digital Link URIにアクセスすると、リゾルバがサービス（例：商品情報ページ）の所在を示すURLを教えてください。クライアントはリゾルバから得られたサービスのURLにアクセスすることで、実際のサービスページにたどり着くことができます。

サービス解釈の標準化

動的なサービス紐づけ



リゾルバは誰が用意しても構いません。リゾルバは必ずしも最初から用意する必要はありませんが、1つのGS1 Digital Link URIから複数のサービスに誘導するためには、リゾルバが必要です。

リダイレクト先の選択には、**Link Type**を用います。リゾルバは、クライアントから与えられたLink Typeに合致するリダイレクト先を選択することになります。利用可能なLink Type一覧は[GS1本部が公開しています](#)。

- <https://id.gs1jp.org/01/04569951119996?linkType=gs1:pip> (商品情報)
→ リダイレクト先の例 <https://example.gs1jp.org/product-info>
- <https://id.gs1jp.org/01/04569951119996?linkType=gs1:instructions> (マニュアル)
→ リダイレクト先の例 <https://example.gs1jp.org/manual>

GS1 Digital Linkの活用イメージ

QRコードはスマートフォンのカメラ機能などで簡単に読み取ることができるため、**次世代QRコード※**の活用が広がっています。

※次世代QRコードは正式にはQRコード（GS1 Digital Link URI方式）と呼ばれ、データをGS1 Digital Link URIシンタックス形式でQRコードに表現したものです。

1つのQRコードから様々なサービス発見

商品に次世代QRコードを貼付し、スマートフォンのカメラ機能から読取った場合は商品情報ページに誘導し、別のアプリ上で同じ次世代QRコードを読取った場合はその商品の在庫情報ページに誘導する、といったことが可能です。

QRコードをスキャン後、「戻る」ボタンをクリックするとメニュー選択画面に遷移します。同じQRコードで商品情報ページだけでなく、在庫情報やトレーサビリティ情報などを確認できます。



下記QRコードをスキャンして
実際にデモをお試しいただけます！



属性情報ごとに異なる情報提供

商品に次世代QRコードを貼付し、ロット番号や有効期限といった属性情報ごとに異なる情報提供をすることも可能です。



<https://id.gs1jp.org/01/04569951119996/10/XYZ987?17=230401>

GTIN

ロット番号

有効期限



商品情報ページで表示される情報例：
「青山店でアメリカ産豚肉を使用し、23年3月30日に製造されました。」

<https://id.gs1jp.org/01/04569951119996/10/STU654?17=240403>

GTIN

ロット番号

有効期限



商品情報ページで表示される情報例：
「渋谷店で国産豚肉を使用し、24年4月1日に製造されました。」



GS1 Digital LinkはGS1識別コードを関連するサービスに紐づけるので、GS1識別コードを扱うことのできる、どのデータキャリアに入っているか、GS1 Digital Link URIを組み立てることが可能です。**データキャリアとは独立しています。**

次世代QRコード活用事例

ワインの商品情報開示の高度化

フランスの大手小売業Carrefourでは、自社ブランド（Johanès Boubée）のワイン製品に次世代QRコードを導入し、成分・原産地・栄養情報などのデジタル提供を開始しました。消費者はスマートフォンでスキャンすることで、製品名・画像・製造年・原産地・成分・栄養情報・リサイクル方法などの詳細情報を多言語で閲覧することが可能です。今後Carrefour社内では、廃棄管理アプリと連動し、従来手入力していた賞味期限管理を次世代QRコードを通じて自動で読み取り・更新できるような構想やPOSレジとの連動も検討しています。



物流機器のデジタルツイン

スイスのGilgen Logistics社は、顧客に納入・設置される物流機器に個別の資産を識別するGS1識別コード、GIAIを含む次世代QRコードを表示しています。端末でQRコードを読み取り、個々の機器のメンテナンス履歴などの情報を入手し、現実の機器のデジタルツインとして活用しています。



GTIN以外のGS1識別コードでも、GS1 Digital Link URIを組み立てウェブ上の情報と紐づけ、様々な用途に活用することが可能です。

次世代QRコードの詳細やその他
活用事例は下記QRコードから！

